

## 議事の経過

発言者	議題・発言内容・決定事項
会長	1. 開会 2. 会長あいさつ
事務局	3. 議題 (1) 前回の会議における質問への回答について事務局より説明。 資料 1-1 過去 10 年間のごみ量推移と分析を説明。 資料 1-2 ごみ処理経費を説明。 資料 1-3 プラスチック製容器包装について説明。 資料 1-4 拠点回収の実績について説明。
委員	資料 1-3 4 ページ「プラスチック製容器包装のリサイクル状況（全国）」について、マテリアルリサイクル、ケミカルリサイクルとあるが、リサイクルされているのはペットボトルが多いのか。
事務局	プラスチック製容器包装に限ったデータである。
委員	資料 1-4 2 ページ スーパーマーケットの回収ボックスは実態に即していない。他のスーパーマーケットで回収ボックスがあることを確認している。
事務局	調査できた範囲の調査で記載したため、再調査し、資料の内容を検討する。
委員	細かい数字を見ている、本検討会議の本来の目的が達成できないように思う。分別素案について時間をかけて議論したい。
事務局	(2) 分別素案について事務局より説明。 資料 2 分別素案を説明。
委員	プラスチック類は令和 4 年度施行予定の法律に沿ってリサイクルするということと認識した。4/27 朝日新聞の記事では、ペットボトルのマテリアルリサイクルは、実際には 10%しか再生されておらず、残りの 90%は焼却するか廃棄していると書かれている。焼却されるのであれば分別する必要はないのではないか。また、廃棄しているとはどういう意味かわからない。
副会長	ペットボトルをペットボトルに再生するのは少ないが、衣服やぬいぐるみの中身などに使われており、かなりの量がリサイクルされているはずである。ペットボトルは品質を整えやすく、集めやすい。
委員	プラスチック以外のものが混ざったものをマテリアルリサイクルしよう

	<p>とすることはほとんど不可能ではないか。</p> <p>資料 2 の「時代に即した」とは、プラスチック以外のものが混在したものでもリサイクルできる技術革新に期待するということか。</p>
事務局	お見込みのと通りの趣旨である。
会長	「マテリアルリサイクルを原則とする」と書かれており、各時代の技術開発の状況をみながら、マテリアルリサイクルを推進できるような技術を適用するということと受け取っている。
委員	プラスチックの分別で怖いのは、集めたものの中でリサイクルできないであろうものも一体どう処理されているのかわからない。そのため、分別そのものがエコにつながるというわけではないと思う。
会長	どのプラスチックがどのような形で処理されているかを押さえた上で、将来的な分別方法を考える必要がある。プラスチックは 20 種類ほどあり、個人が見分けることは難しく、リサイクルが進まないという現状がある。環境省はなんとか分別してリサイクルしたいと思っており、これを分別素案に反映すべきと思う。
副会長	「緊急事態において他市への処理を要請する場合も分別しているほうが受入れられやすい」とあるが、これは不燃ごみのことか。可燃ごみは該当しないのではないか。
事務局	かつて可燃ごみの受入れを近隣地自体に要請したことがあったが、上尾市はプラスチックごみを可燃ごみに含めていたこともあり、受入れには苦労したと聞いている。
副会長	古い焼却施設では設計カロリーの問題があるが、新しい施設では問題ないと思う。ただし、プラスチックの選別に関して重要なのは、汚れたプラを可燃ごみに入れるか不燃ごみに入れるかという問題があり、不燃ごみに入れた場合、近隣自治体への処理を要請する観点から言えば、後々影響がでる。
会長	慎重に記載する必要がある。分別の方向性が明らかにわかるものとするべきと考える。
委員	住民としては、どの程度汚れやにおいがある場合出せないのかなどの分別基準を明示しないとわからないが、細分化しすぎても混乱する。そのため、単純化されて誰でもわかる方法にすべきだと考えている。また、地球環境全体を考えたときに、サーマルリサイクルをやめてお金をかけて再資源化をすることが最善かどうかはわからない。プラスチックを再資源化するに

	<p>もエネルギーがかかるので、マテリアルリサイクルしない方がいいのかもしれないと思うぐらいだが、技術が進むことを考えたら分けてもよい。将来的には、プラスチック製品が少なくなってきたり、分別する必要がなくなるかもしれない。だからこそ、わかりやすい方法でプラスチックを分けることが非常に大切であり、それがどうなっていくかを示さないとやる気がでない。そのため、単純に分別すればいいということは反対である。色々な人が全員参加でゴミを減らしていくことが一番で、プラスチックを分けることが目的ではないと思いたい。</p>
会長	<p>プラスチックについては分別が非常に難しいが、施設整備の交付金要件に、プラスチックの資源循環が求められていることもあるので、今後の状況を注視すべきと考える。原則マテリアルリサイクルとして、状況の変化に応じて弾力的に検討すべきである。</p>
委員	<p>地球環境に最も影響が少なくプラスチックを処理する方法はなにか。全くプラスチックを使わない生活は考えられないが、必要以上に使っていないかということがまず考えられる。また、収集体制も製造会社を使って協力して集めるなどできないか。これは政策の問題であるため、行政も考えるべきと思う。</p>
委員	<p>西貝塚環境センターに隣接した地域の住民であるが、当時の施設整備時にも同様の議論があった。このように、プラスチックをどう扱うかは時代と共に変遷していくものであることから、世界中で課題になっているのが現状だと思う。マスコミでもプラスチックが貴重な資源として報道されている。</p> <p>将来の施設であるので、処理方法に差があるものすべてをやろうと思うのは無理であるため、絞り込んで、上尾・伊奈として新しい施設にふさわしい、行政の目玉を取り入れたほうがよい。</p>
会長	<p>法律案では、製造、販売時にも工夫し、自治体も現在のルートを活用してリサイクルすべきと書かれている。今回の分別素案では、十分でないところもあると思いますので、次回提示してください。</p>
事務局	<p>次回改めて分別素案を提示する。交付金はプラスチックを混焼しないという要件が新たに加わると聞いているが、プラスチック類全体を指すのか容器包装のみか分からない状況であるので、今後注視する。今回は両市町で大きな違いがある部分についてのみ、分別素案を示したものであるため、これまでの分別方法とか収集方法等にとらわれることなく、どういう点で捉えれば、ゴミの収集方法として最もいいのかを考えながら、また素案を作らせていただきたい。</p>
会長	<p>国、業界、他市町村の動向に配慮して、素案を再提示いただきたい。</p>
委員	<p>候補地に近接した住民であるが、上尾市はプラスチックを何十年も燃やし</p>

事務局	<p>てきたため、主婦としては今までどおりがよいが、環境問題や時代に即した最適な処理方法など委員の意見を聞いて、時代が変わってきたと感じた。</p> <p>分別の実施時期について記載があるが、長いスパンをもって、稼働後にはきちんと収集できるように取り組んでほしい。スーパーでもペットボトルとプラスチックを回収しているが、もっと品目を増やしてほしいと要望を出すこともあり、行政からスーパーに要望を出してもよいではないか。私は今から分別の練習をしているが、少しずつ住民に周知が大切なのではないかと考える。</p> <p>4. その他 アンケートの実施について、事務局より説明。 また、次回検討会議については7月下旬予定。</p> <p>(意見なし)</p>
副会長	<p>閉会のあいさつ</p> <p>5. 閉会</p>